

川越市鳥瞰図

## 川越市鳥瞰図（「川越案内」所収）

大正時代になって全国的に鉄道網が発達し、各地に行楽地や宿泊娯楽地が整備されると、都市部のサラリーマンを中心に観光ブームが巻き起こりました。この頃から「観光」という言葉が、英語のツーリズムの訳語として次第に使用されるようになります。各地の観光案内書には、わかりやすく美しいことから、鉄道沿線や観光地を描いた鳥瞰図が取められるようになります。鳥瞰図とは広い地域を高所から見下ろすように描いた図で、江戸時代には「一覧図」とも呼ばれていました。大正から昭和にかけて活躍した鳥瞰図絵師としては、吉田初三郎（1884～1955）が知られています。初三郎は全国各地の鳥瞰図を手がけ、「大正の広重」とも呼ばれました。

この「川越市鳥瞰図」は、川越市役所が発行した「川越案内」に収められているものです。発行年は不明ですが、描かれている市街の様子から昭和10年（1935）前後と考えられます。図では、東上線や西武線が赤い線で描かれ、小さな電車が走っています。また寺社や名所地などが赤い短冊で強調されています。全体的に鉄道を利用した川越の観光案内図となっています。鳥瞰図から読み取れる当時の観光名所は、市街地では氷川神社・喜多院などの寺社関係、川越城跡、時の鐘、高沢橋、赤間川、烏頭坂など、郊外では伊佐沼、競馬場などです。今日でも川越の観光スポットとなっている所が多く含まれています。



# 近代化と赤煉瓦Ⅲ

## 【はじめに】

古煉瓦ならびに古い煉瓦造建築を見つけたとき、およその年代判定が可能なることを御存知でしょうか。一般的に、表①に示したような方法で年代を判定することができます。

さて今回は、ここ数年の間に市内で発見した2例の古煉瓦を用い、この年代判定方法等からどのようなことがわかるか、考察してみたいと思います。

### 考察 1 日本聖公会川越キリスト教会の煉瓦

平成12年2月24日（木）、日本聖公会川越キリスト教会（川越市松江町2丁目4番地13）の工事現場で（煉瓦）刻印煉瓦を発見。



写真① （煉瓦）刻印煉瓦

平成11年から行われていた新会館、牧師館建設工事に伴い「屑煉瓦が出てきたので調べに来ないか」と教会関係者から連絡をもらい、調査を行う。

#### 〈日本聖公会川越キリスト教会について〉

起工 大正9年(1920) 竣工 大正10年(1921) 2月

献堂式 大正10年(1921) 4月

構造 煉瓦造一枚半積平屋建

外壁 煉瓦フランス積

屋根形状・葺材 切妻瓦葺（現在スレート葺）

設計者 ウィリアム・ウィルソン



写真② 日本聖公会川越キリスト教会

表① 煉瓦ならびに煉瓦造建築の年代判定（国産煉瓦に限る）

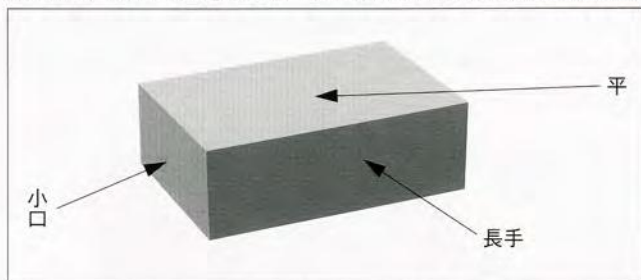
1 煉瓦の寸法	煉瓦の寸法と形状からみた年代的な傾向としては、平の面が大きく、つまり、長さが長くて幅が広く、逆に厚さが薄いほど製造された年代は古い時代にまで遡ると考えてよい。
2 煉瓦の色調	寸法が大きな煉瓦で、みかん色や黒色をしていたら古い時代の煉瓦だと考えてよい。
3 煉瓦表面の仕上状態	煉瓦の平の面が縮緬状を呈していたら、明治22年以降の国産煉瓦と判断してよい。しかし、機械製煉瓦は明治後半以降であるが、手抜き製煉瓦が必ずしも古いとは限らない。
4 社印と責任印	流れとしては、責任印だけを押ししていた時代から、責任印から社印の両方あるいは両方を兼ねた一つの刻印を押す時代に至る。今日では社印を押すこともほとんどない。責任印だけを押しするのは、手抜き成形の注文生産により職工に出来高払いで賃金を支払っていた時代であった。すなわち、明治20年代前半までである。その少し前頃から社印と責任印の両方を押す過渡期が始まる。これは遅くは関東大震災まで続く。
5 目地材料	セメントモルタル目地できちんと積まれている煉瓦造建築は明治24年10月28日の濃尾地震以降に施工されたもので、普及し始めるのは、その翌年以降である。
6 煉瓦組積法	フランス積は明治10年代までで、その後ほとんど姿を消す。イギリス積は20年代以降、特定の理由がない限り、当然のようにして採用された。オランダ積を含むイギリス積は、大正12年9月1日まで主流の積み方として幅を効かせた。
7 表積と裏積	表積用化粧煉瓦は明治22年以降製造された。 普通煉瓦ノ部…偶然に焼き上がりか違う製品を“表積用”と“裏積用”にあとから分ける方法。 表積煉瓦ノ部…専用の化粧煉瓦窯で表積用煉瓦ばかりを焼き上げようとするもの。

『日本煉瓦史の研究』水野信太郎著より 一部引用して作成したもの



《考察》

工事現場にあった20個程の屑煉瓦を調べる。煉瓦に目地が付着していたり破損していたりして、元の大きさが同じであったかどうかの確認が非常に困難である。また、煉瓦の長手の面（図①参照）を中心に焼成具合に斑があるよ



図① 煉瓦 面の名称

うに感じられた。よって、統一規格に基づく機械製造煉瓦ではなく、(当教会のすぐ近くにかつて煉瓦屋と呼ばれていたタイル店の存在があったことから) 地元生産によるものと仮説を立ててみた。

しかし、少々離れたところに積み上げてあった同じく20個程の煉瓦を調べてみると、日本煉瓦製造株式会社（※注）において大正期に製造された刻印（表②）のあるものを3個確認することができた。このことから、日本煉瓦製造株式会社製煉瓦が、この教会に使われていたことが実証された（以前から日本煉瓦製造株式会社製煉瓦が使われているだろうと言われていたが、確かなことはわからなかった）。なお、当教会の起工・竣工年と大正期を表す刻印が煉瓦に確認できたことは、史実に符合する。

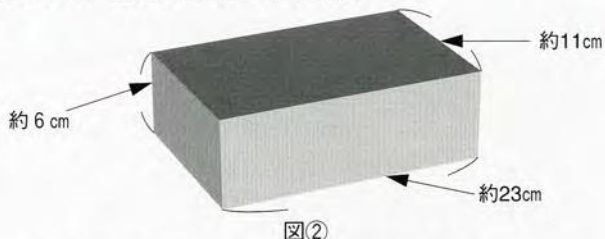
表② 日本煉瓦製造株式会社 煉瓦刻印の変遷

明治期	製免敷上
大正期	煉 日
昭和期	日 本

しかしながら、煉瓦の寸法、焼成に斑等がみられることから、果たして全てのものが日本煉瓦製造株式会社製なのか疑問として残るところである。

2月28日(月)、この疑問を解消すべく、再度調査を行う。

まず、煉瓦寸法について正確に計測してみる。計測可能な50個程の煉瓦を計測した結果、(ミリ単位では違いがあるものの) 図②のとおりであった。



図②

このことから、前回立てた仮説である地元生産の煉瓦が使われたのではないかということは、ほぼ否定（建物に使われている煉瓦を全て計測しない限り完全否定は困難）できる。また、焼成斑については、表①にもあるとおり、機械製造による大量生産煉瓦といえども焼き窯の中で積み上げられた位置でできる誤差の範囲内と考えていいだろう。

次に、煉瓦規格の変遷について調べてみると、図②の寸法に該当すると思われる煉瓦は、一般に東京形と呼ばれる明治35年頃の普通煉瓦規格で、寸法は227mm×109mm×60.6mm(7寸5分×3寸6分×2寸)となっている(この寸法は明治35年以前から使われている)。その後、規格の変更は大正13年(1924)3月に行われ、普通煉瓦寸法は、210mm×100mm×60mmとなった。よって、日本聖公会川越キリスト教会の竣工年である大正10年(1921)と時期的に照らし合わせてみても、刻印・寸法の両面において史実に符合することとなる。

《まとめ》

日本煉瓦製造株式会社において大正元年(1912)から13年3月まで生産されていた規格の煉瓦が、日本聖公会川越キリスト教会の礼拝堂ほかで、大正9年から10年にかけて使われたといえる。

考察 2 太物問屋 菅正(菅間正作)の煉瓦

平成14年7月30日(火)、旧菅正跡地工事現場(川越市元町2丁目2番地)で(製免敷上)刻印煉瓦を発見。



写真③ (製免敷上)刻印煉瓦

この煉瓦を見つけた場所は、跡地の中でも2階建ての煉瓦蔵があった場所で、その土台部分にあたる所と思われる。地面から下方へ3段程の煉瓦が積まれていた。更には、その下はセメント層がかなりの厚みで残っていた。この形態から、地下蔵の部分ではないかと考えられる。(写真④)



写真④ 旧「菅正」跡地工事現場 地下蔵と思われる

《菅正について》



写真⑤ 大正13年頃の菅正





写真⑥ 最近まであった菅正煉瓦壁

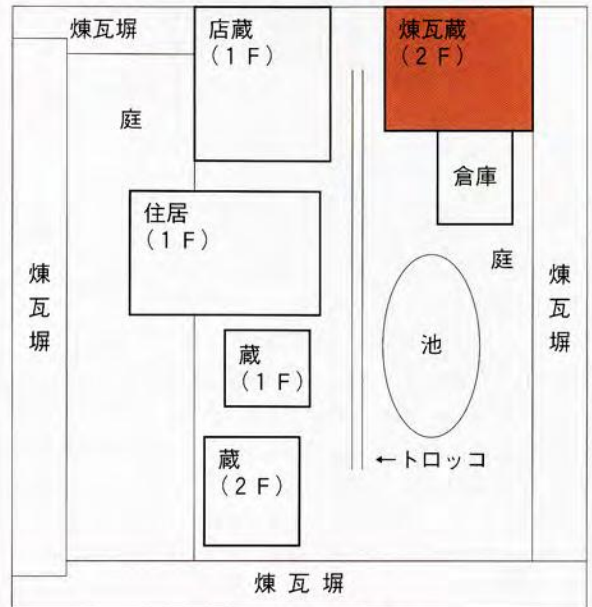
「菅正」についての詳細はわからない。写真⑤にある煉瓦蔵を含めた建物は昭和21～22年（1946～47）に取り壊されたらしい（煉瓦塀の一部が最近まで残っていた…写真⑥）。また、安政4年（1857）生まれの菅間正作（大正6年（1917）5代目の川越町長に就任）の時代に建てられたと考えられるが、何年のことなのかは全くわからない。「菅正」の文字が南町416（現在の元町2丁目2番地）に現れるのは、『蔵造りの川越 一川越市伝統的建造物に関する調査報告書一』によると、明治26年（1893）からである（表③参照）。また、明治35年（1902）の『埼玉県営業便覧』にも「太物問屋 菅間正作」とある（図③参照）。

表③ 明治後期の南町店舗変遷表

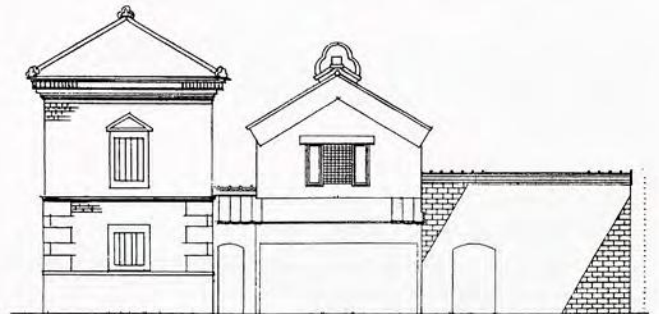
35	26	18	北 (現在の一番街通り)	18	26	35
麻重	麻重	山長	近太 万彦 小松 麻与	近太	麻表	麻表
菅正	菅正	和森		万彦	万彦	近常
		金森		小松	小松	小松
近太	近太	近文				西洋堂
近仁	近油	近内				仲屋九

図③ 『埼玉県営業便覧』より

昭和10年前後の「菅正」のを知る方の記憶をもとに図化したものが図④である。また、当館の「蔵造りの町並み復元模型」製作時に図面化したものが図⑤である。（※双方の図の内容に多少の違いが見られるのは、図④が記憶によるものなのに対し、図⑤は限られた資料をもとに図面化したものという相違によるものであることをお断りしておく。だが、今回の焦点である煉瓦蔵については特に違いは見られない）



図④ 菅正 屋敷図



図⑤ 「蔵造りの町並み復元模型」図面

《考察》

発見した煉瓦は、(免敷製上)の刻印があることから、**考察1**でも触れたように日本煉瓦製造株式会社で明治期に製造されたものである。また、いくつかの煉瓦寸法を計測した結果は、大正13年に規格変更される以前の227mm×109mm×60.6mmというものであった。

既に触れたように、「菅正」の文字が今回の煉瓦を発見した場所に現れるのは明治26年であることから、刻印煉瓦の発見で「菅正」煉瓦蔵は、明治26年の川越大火後の明治期に建てられたと考えられる。

一般に日本煉瓦製造株式会社製の煉瓦は、工場での出荷が始まる明治23年（1890）から明治25年（1892）において、公共的な需要が中心であった（表④参照）。例えば、海軍省や司法省を始めとする官公庁の建物や信越線碓氷トンネルおよびアーチ橋といった鉄道施設等である。この需要が落ち着いてから東京市場を中心とする一般への需要が



伸びたといわれている。歴史に‘もし’は厳禁であるが、明治26年の大火直後に「菅正」煉瓦蔵が建てられたとすると、一般商家における日本煉瓦製造株式会社製煉瓦の使用例としては非常に早い部類となる。

表④ 日本煉瓦製造株式会社の煉瓦を使用した主たる建築および構築物  
(日本煉瓦製造株式会社発行『日本煉瓦100年史』より引用)

評議番号	契約年月日	建築・構築物	品名・数量
262	明治23	裁判所	独逸形 308万個
281	23.5.27	海軍省及び海軍大臣官房舎	並形 340万個
299他	23.8~10	清水店	日本形 178万個
324	24.2.28	碓氷トンネル	焼過三種 500万個
328	24.5.13	司法省(現法務省庁舎)	化粧煉瓦 14万個
336	24.6	日本銀行	焼過大 23.5万個
346	24.8.27	東京府廳	並形3等 224万個
362	24.12	碓氷トンネル他	焼過 750万個 追加 250万個
378	25.1.28	内務省及び裁判所	極薄赤色 19.8万個
378	25.1.28	海軍省	化粧煉瓦 15万個
384	25.3.19	司法省	独逸形化粧28.5万個
387	25.4.21	巢鴨監獄署	極上煉瓦 190.9万個
389	25.5.27	日本銀行	穴明筋入 100万個
	26.3.23	淀橋浄水場	横黒他焼過 442万個
415	26.3.28	裁判所	独逸形並 50万個
417	26.6.9	日本銀行	並形 20万個
430	26.11.18	淀橋浄水場	横黒他焼過 397万個
432	26.12.23	三菱社丸の内第2号館	並形 110万個

また、以前行った刻印煉瓦の調査において、(製免敷上)刻印煉瓦の使用例として判明したものは、旧東上鉄道(現東武東上線)の入間川上戸鉄橋橋台(大正3年頃竣工)(写真⑦)のものと古谷上の農業用水利施設である笹原門樋(明治43年竣工)(写真⑧)という公共的なものであった。しかし、今回の発見によって旧城下にあたる町中の商家で明治期の日本煉瓦製造株式会社製煉瓦が使用されていたことが実証されたことになる。このことは、同じく町中の商家であった蔵造り資料館(旧小山家)にある煉瓦塀等が、明治期における日本煉瓦製造株式会社製煉瓦であることの可能性を大きくしたといえるが、壊す機会がない限り解明することができないという、保存と破壊というジレンマがつかまとう。



写真⑦ 上戸鉄橋橋台刻印煉瓦



写真⑧ 古谷上「笹原門樋」(製免敷上)煉瓦刻印

### 【おわりに】

いかがでしたか。単に赤く四角だけの物体に見える煉瓦ですが、意外なことがわかるものと感心されたと思います。煉瓦は明治から大正にかけて、当時のハイテク素材として、日本の近代化を支えてきました。そして、煉瓦を生産していた工場は、日本煉瓦製造株式会社のほかにも数多くあります。よって、煉瓦刻印についても多くの種類があるのです。例えば、下野煉化製造会社(栃木県下都賀郡野木町)の<S>や、金町製瓦会社(現在の東京都葛飾区にあった)の〇〇といった具合です。そんな煉瓦を考古学の発掘調査のような感覚で調べてみるのも、なかなかのものではないでしょうか。皆さんにも是非、煉瓦に隠された事実を発見する興奮を味わっていただきたいと思います。

(教育普及係 大澤 健)

※注… 明治20年(1887)渋沢栄一らによって設立。現在の埼玉県深谷市に工場を建設。この工場で作られた煉瓦が、日本を代表する数多くの近代建築物に使われた。現在も同地で操業している。

トピックス

## 博物館文化祭

12月1日(日)、当博物館にて第2回文化祭を開催しました。

当日は、ミュージアムコンサート「魅惑のフォルクローレ」の演奏のほかに、同好会の皆さんの御協力で、作品展示や体験教室が行われました。また、「わたしたちの川越を描く美術展」や、総合的な学習の時間での作品展「川越っ子 発見伝」の展示もあり、多くのお客様に御来館いただきました。





# 福田の獅子舞

— 川越市指定無形民俗文化財 —



平成11年撮影

獅子舞には、悪疫を退散させるなどの意味合いが古くから込められており、人々の生活と密接な関わりを持った芸能の一つとして各地で盛んに行われていました。しかし、戦後の高度成長における生活様式等の変化に伴い、この獅子舞は次第に行われなくなってきています。

川越市内では、これまで博物館で行った調査等によって26カ所で獅子頭<sup>しのね</sup>の存在が確認されています。このことは、埼玉県内の中でも獅子舞が盛んに行われていた地域であったことを示しています。現在は、6カ所の地域で獅子舞が大切に受け継がれ、定期的に演じられています。

今回御紹介する福田の獅子舞は、川越市の北部、福田地区の赤城神社を中心に行われているものです。江戸時代から獅子舞が行われてきたことが伝承されており、明治4年（1871）に獅子頭を塗り替えた記録も残されています。かつては7月23・24日の天王さまの日に行われていましたが、最近では7月下旬から8月上旬にかけての土日を実施しています。

ここの獅子舞は、獅子頭を1人でかぶって舞う「一人立ちの獅子」の形態で、3人が1組となる「三匹獅子」といわれるものです。3匹の獅子は先獅子、中獅子、後獅子

と呼ばれ、先獅子（ねじり角）と後獅子（六角角）は雄で黒漆塗り、頭上に宝珠を載せています。また、中獅子は雌で朱漆塗り、頭上に金色の宝珠と短い角を載せています。獅子の他には、先導役のハイオイ1人、花笠をかぶったササラッコ4人、それに笛吹きと歌手が加わります。

こうした獅子舞に関わる様々な役は、難しい笛を横笛に替えて縦笛を用いるなどして、地区の子ども達を中心に演じられます。大人の指導を受け、数カ月前から練習を重ねて本番に臨みます。また一方で、獅子舞保存会を始めとして、自治会や育成会、壮年ソフト等、地区の多くの方々が協力して獅子舞を支えています。

行事は2日間にわたりますが、2日目、日が落ちてからの獅子舞が最大の見所となります。まだ日中の暑さが残る中、境内には多くの見物客が参集し、演技する者、見る者が一体となってその場が大いに盛り上がります。平成14年はあいにく雨に降られ、社務所内での1庭となりましたが、熱のこもった獅子舞が演じられました。

古くからの伝統を大切にしながらも、様々な工夫をして継承している福田の獅子舞。これからも素晴らしい獅子舞を見せていただけることと思います。

※平成14年は、下記の日程で獅子舞が行われました。

7月28日	日	・お仮屋立て ・天王さま迎え	赤城神社にある御神体を境内に建てたお仮屋に移します。
8月3日	土	・幟 <sup>のぼり</sup> 立て ・用具作り ・獅子舞	早朝から幟を立て、祭りに必要なものを準備します。夜は宵宮として獅子舞を行います。
8月4日	日	・地区巡り ・獅子舞	高張提灯を先頭に万灯、獅子、花笠、神主等が行列を作って地区を一巡します。途中、四方固めといって地区境4カ所にフセギの札を立て、3カ所で獅子舞を行います。夜7時から獅子舞（3庭の予定でしたが、雨のため1庭）。
8月5日	月	・天王さま送り ・幟下ろし ・お仮屋解体	早朝、お仮屋の御神体を神社に戻し、幟を降ろします。



# Information

3月までの予定です。

## 講座・教室 e) t) c).

行事	日程	申し込み
歴史講演会 「江戸時代の旅と道」 講師 櫻井邦夫氏(駒澤大学文学部非常勤講師)	2月23日(日) 13:30~15:30	2月1日(土) 午前9時~
野外博物館教室 「地域の文化財めぐり」(霞ヶ関地区)	3月15日(土)	3月1日(土) 午前9時~
野外博物館教室 「川越の石仏」	3月26日(水)	3月5日(水) 午前9時~

\*変更の可能性もあります。

申し込み方法も含め、詳細については、「広報川越」を御覧下さい。お問い合わせは、博物館まで。

### 土曜体験教室

今年度から、毎月、第2土曜日に加え、  
第4土曜日にも開催しています。  
博物館に遊びに来てください。

- 場所 川越市立博物館
- 時間 午前10時~11時30分  
午後1時30分~3時30分

平成15年 2 / 8 はかってみよう

2 / 22 はかってみよう

3 / 8 竹を使ったおもちゃ作り

3 / 22 シャボン玉を飛ばそう

- 申し込みは不要です。当日、直接博物館へお越しください。
- 参加のための入館は無料です。

## 御 紹 介

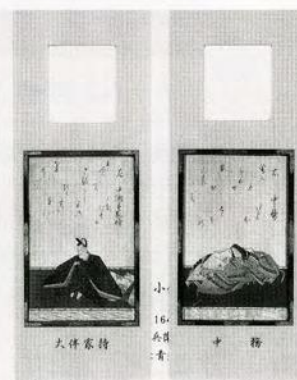
### 三十六歌仙額ブックマーカーを 販売しています

博物館では、昨年、市制施行80周年を記念して、三十六歌仙額ブックマーカー(しおり)を作製いたしました。

三十六歌仙額は国指定重要文化財で、川越市小仙波町の東照宮に奉納されていたものです。絵は江戸時代初期の絵師・岩佐又兵衛、書は当時名筆として知られた青蓮院宮尊純親王とされています。

三十六歌仙の中からブックマーカーデザインに取り上げた歌人は、中務と大伴家持の2人です。

塩化ビニール製、縦11cm・横4cmの大きさです。2枚セット300円で、博物館受付にて販売しています。



大伴家持 (16歌仙額)  
ささしかのあきたつきの、あきほぎに  
よとみるまでをけるしらつゆ  
中務 (16歌仙額)  
鶯のこゑなかりせば響きえぬ  
山ざといかではるをしまし

# 第13回ミニ展

## むかしの勉強・ むかしの遊び

特別  
展示  
室  
の  
展  
観

平成15年1月21日(火)～3月2日(日)

ここ数十年で、私たちの生活はめざましく変化しました。その移り変わりを、生活にまつわる品々でたどります。

昭和30～40年代の教室・居間・台所や駄菓子屋の店先の再現を行うほか、教科書や文房具・電気洗濯機・白黒テレビ・ブリキのおもちゃ等を展示いたします。

皆様の御来館をお待ちしています。



# 第21回企画展「はにわは語る」

平成15年3月21日(金)～5月11日(日)

埴輪は、王の墓である古墳に立てられた葬送用の器物です。この展覧会では、埼玉県内を中心とした埴輪の展観を通して、古代人の精神世界の一端を探ります。

## 利用の御案内

- ◆開館時間 午前9時から午後5時まで(ただし入館は4時30分まで)
- ◆休館日 月曜日(休日は除く)、毎月第4金曜日(休日は除く)、  
休日の翌日(土・日曜日は除く)、年末年始(12/28～1/4)、  
燻蒸期間(7月上旬頃予定)、特別整理期間(12月中旬予定)

### ◆入館料

区分	博物館	川越城 本丸御殿	川越市 蔵造り資料館	3館共通券 (博物館・川越城本丸御殿・川越市蔵造り資料館)
大人	200円(160円)	100円(80円)	100円(80円)	300円
学生・生徒	100円(80円)	50円(40円)	50円(40円)	150円
児童	50円(40円)	30円(20円)	30円(20円)	80円

●( )内料金は、団体〔20名以上、1名につき〕の場合。

- 開館時間・休館日は、3館とも同様。(燻蒸期間・特別整理期間は博物館のみ休館)

### 交通案内

東武東上線・JR川越線 川越駅より  
または西武新宿線 本川越駅より  
東武バス 「札の辻」下車徒歩8分



発行日 平成15年1月31日

発行 川越市立博物館

〒350-0053 川越市郭町2丁目30番地1 ☎ 049-222-5399

FAX 049-222-5396

Eメール hakubutsukan@city.kawagoe.saitama.jp

http://www6.ocn.ne.jp/~kawahaku/